

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 15日

事業所名 ハピネス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		活動の場所をしっかりと分ける事が出来ている。	
	2	職員の配置数は適切である	6		職員の男女比が適切である。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		活動の場所を分ける事で児童に分かりやすい構造で、床マットを敷き段差を無くす事でバリアフリーにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		毎朝と児童帰宅後に清掃を行なっている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		毎朝、支援終了後の職員ミーティングで情報共有しみんなで業務改善に努めている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		保護者様から頂いた意見を職員ミーティングで全体に周知し、業務改善を図っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		自己評価を行い、結果を基に職員間で共有・周知を行い、業務改善に努めている。また、ホームページでも公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		第三者による見解を基に業務改善に努めている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		年4～5回研修を行なっている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		支援会議を行い、子ども、保護者のニーズに即した計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		保護者から提出して頂いた事前情報等を用いている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		保護者や相談員から得た情報やニーズを基に具体的な支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		保護者や子どものニーズに応えるよう計画書を作成し、それに沿って全職員で支援を行なっている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		毎朝の職員ミーティングにて話し合いを行い、立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		毎朝の職員ミーティングにて話し合いを行なっており、プログラムを工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		児童発達支援計画に即した活動を状況に応じて適宜行なっている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		毎朝職員ミーティングを行い、支援内容等の話し合いを行なっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		当日の利用児童送迎が終了後に、職員間で当日の支援等についての振り返りと共有を行なっている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		職員間から出た情報を基に日々記録を取りながら、今後の支援に関しての検証や改善に努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		相談員や保護者との連絡を密に取り、子どもの状況や日々の記録、職員間の情報を併せて見直しの判断を行なっている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		利用児童と関わっている関係機関が集まり会議を進めている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		利用児童と関わっている関係機関と連絡を取り合い、一貫した支援を行なっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				医療的ケア児童や重症心身障害の児童の利用がない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケア児童や重症心身障害の児童の利用がない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		モニタリングや担当者会議等で情報共有を行ったり、互いに連絡を取り合いながら相互理解を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		モニタリングや担当者会議等で情報共有を行ったり、互いに連絡を取り合いながら相互理解を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	専門の講師を招いて研修や勉強会を行い、助言を頂いている。	今後も職員の知識の幅を広げるために、継続していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	2		コロナが緩和傾向にもなり、今後の活動の幅を広げるために、検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1		子ども部会や地域との連携を図るため、今後検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		連絡帳や自宅への送り時、電話やSNSを使用して状況や課題を伝達しています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	6		必要に応じて保護者へ支援プログラムに関する勉強会などの案内を行なっている。	コロナ自粛が緩和傾向になり、プログラムを計画し易くなってきていることから今後も計画を進めていく。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		契約時など、保護者と一緒に読み合わせと詳細の説明を行い同意を頂いている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		児童発達支援計画書作成後は、保護者へ支援計画についてのしっかりと説明を行い、保護者から同意を得た際には押印をお願いしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		連絡帳や自宅への送りの際などを活用して保護者から聞き取り、必要に応じて助言を行ったり、職員間で情報共有し支援に繋げている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		保護者参加の計画を立案し、お知らせ等で案内をし、保護者間の連携を図っている。	コロナ自粛が緩和傾向になり、プログラムを計画し易くなってきていることから今後も計画を進めていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		子どもや保護者からの相談・申し入れに関して職員間で情報共有・周知を図り、状況に応じた整備・対応を行なっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		毎月配布したり、状況に応じて会社ブログにて発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		個人情報の取り扱いについては、職員間で意識して取り組んでいる。また、個人ファイルや重要書類などは鍵付きのロッカーで厳重に保管している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		子どもや保護者の状況に併せて、伝達方法を手話やSNSを活用したり、相談員からの協力も得ながら行なっている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	1		コロナ自粛が緩和してきたので、今後地域との交流を増やしていけるよう計画を進めていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		状況に併せた対応マニュアルを策定し、全職員へ周知している。	対応マニュアルをファイリングのみではなく、全体へすぐに周知出来るよう掲示する等の対策を行う。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	1	年2回(9月、3月)に防災訓練を行うよう計画している。	今後も年2回(9月、3月)に行えるよう計画を進めていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		保護者から提出して頂いた事前情報等を用いて対応を進めたり、服薬が必要な子どもに関しては服薬依頼書の提出依頼を行なっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		保護者から提出して頂いた事前情報などを活用してアレルギー対応を行なっている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		ヒヤリハットの事例が起きた際にはすぐに報告書を作成・ファイリングし、全職員へ周知を促している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		虐待防止の研修に参加したり、参加した職員を中心に、研修会を行なっている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		相談員や保護者へ状況説明を行ってから、組織的な決定を進めている。また、決定した際には速やかに相談員や保護者へ説明し、了解を得た上で進め、その際には計画書等へ記載している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。